

〔公表〕 事業所における自己評価総括表

○事業所名		児童発達支援センター　さんぼみち			
○保護者評価実施期間		令和 7 年2月1日		～	令和7年2 月28 日
○保護者評価有効回答数		(対象者数)	62人	(回答者数)	30人
○従業者評価実施期間		令和 7 年2月1日		～	令和7年2 月28 日
○従業者評価有効回答数		(対象者数)	14人	(回答者数)	14人
○事業者向け自己評価表作成日		令和7年3月15日			
○ 分析結果					
	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること		工夫していることや意識的に行っている取組等		さらに充実を図るための取組等
1	家庭支援プログラムの実施		ペアトレを実施しています。また、親の会にて、ご家庭での困り感などをお聞きしています。		ペアトレを実施している職員と、支援をしている職員で、情報共有を行っていきます。
2	職員の配置数と専門性		保育士、児童指導員、作業療法士、公認心理士など、様々な職種の職員、基準よりも多くの職員が配置しています。		多角的な視点での支援ができるように、申し送りや振り返りなどの時間を使って、情報共有を行っていきます。
3	定期的な情報発信		定期的におたよりや連絡網にて、日常の支援の様子やプログラムなどを発信しています。		おたよりではご家族の了承を得たうえで、写真を掲載し、よりわかりやすく情報発信をしています。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること		事業所として考えている課題の要因等		改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運営規程や利用者負担に関する説明のさらなる丁寧さの追求		保護者の方が一度に多くの情報を受け取る状況の大変さへの寄り添いが不足していた。		重要なポイントを抑えたり、保護者の方がどこがわかりにくいのかをその都度確認して、丁寧に説明をしていきます。
2	保護者間の連携を深めるための親の会の開催頻度向上		時間帯や人数的な問題などで、参加しにくい方がいる。また、内容がニーズに合わない可能性が考えられる。		時間帯や参加人数の検討を行います。また、保護者の方が興味のある内容を考えます。
3	非常災害時の避難・救出訓練のさらなる定期的実施		毎月行っていますが、内容がマンネリ化しやすい。		繰り返しの中で、職員が必要を感じられるように内容を考えていきます。